

子どもの学びをつなぐ小中連携

—小中連携カリキュラムのすすめ—

山口県教育庁義務教育課

小中連携カリキュラムについて

各教科等の学習内容については、小学校・中学校それぞれの学習指導要領で、学年や領域ごとに、その基準が示されており、系統的、連続的に配列されています。

県内全ての小・中学校の先生方が、互いの学習内容やそのつながりについて理解し、同じ子どもの教育に携わる小・中学校の先生が連携、協力して指導に当たることは、教育効果を高めることはもちろん、地域からも信頼される学校づくりにつながります。

こうした中、各市町教委では、コミュニティ・スクールを基盤とした小中連携教育を積極的に進められており、小中のつながりを重視したカリキュラムづくりへの取組も始まっています。学習のつながりを意識することは、指導の充実につながり、それが一人ひとりの子どもたちの学力の保障につながります。

そのような取組の一助となるよう、教科の単元や内容の配列系統一覧を示した小中連携カリキュラム例をお届けします。この小中連携カリキュラム例をもとに、各中学校区で小中の教員が集まり、校区内の子どもの現状や課題について意見交換し、より具体的で、効果的な指導のあり方を見出していきたいと思えます。小学校と中学校とで育てたい子ども像を共有し、その実現に向けた取組を話し合い、小・中学校それぞれの段階に応じた取組の充実を図っていくことで、子どもの豊かな成長を支えましょう。

小中連携カリキュラムのよさ —小中の役割と協力点を見出しましょう！—

- ① 小・中学校それぞれに、学習指導要領で示された学習内容やねらいについて知ることができます。
- ② 小・中学校の学習内容について、どの学年で何をどの程度学習するか、前後のつながりがどのようになっているかについて理解することができます。
- ③ 先の学習を見据えて指導することや、子どものつまづきを捉え、立ち戻って指導することができます。

小中連携カリキュラムの活用

- ① 小・中学校の教員が小中連携カリキュラムを見て、共通課題について話し合う場を設定しましょう。
- ② 学習内容のつながりを確認した上で、どのような指導が適切か、復習する場合はどこまで立ち戻るかについて意見交換し、指導内容、方法を整理しましょう。
- ③ 使用している教科書等を持ち寄り、学習内容や指導の手立て等について意見交換しましょう。
- ④ 小中で育てたい子どもの姿や身に付けさせたい授業規律、家庭学習の習慣等を明らかにし、指導における小・中学校の役割や具体的な手立てについて整理しましょう。
- ⑤ 整理した内容をもとに、小・中学校それぞれにおいて、日々の指導の改善や自校のカリキュラムの見直しを進めましょう。